

青梅市文化財ニュース

第410号

令和3年12月15日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土博物館(青梅市駒木町 1-684 TEL0428-23-6859)

2021 年エナガの繁殖

エナガは全長約 14 cm、体重約 6 g。スズメよりも小さく 1 円玉 6 枚くらいの重さです。九州より北に分布し、平地から山地の林に生息していますが民家の庭先にも現れます。一年を通して 10～30 羽ほどの群れで行動し、青梅では一年中見ることができる「留鳥」です。



エナガ スズメ目/エナガ科

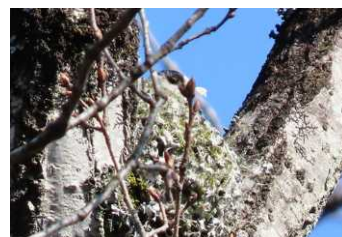
繁殖はシジュウカラなど他の小鳥たちよりやや早く、まだ寒い 3 月頃から始まります。巣は小枝、木の葉などをクモの糸やガの繭などで編み込み、楕円形の袋状の巣を作ります。表面はウメノキゴケなど地衣類でカモフラージュして木の一部のようにします。入口はエナガが出入りできるだけの大きさにし、内側は保温のために林に落ちている鳥の羽を 1,000 枚ほど集めて敷き詰めます。



モミ上部の巣



巣の内部



ヤマザクラ中部の巣

2021 年の春は市内にあるアカマツ上部、モミ上部、ヤマザクラ中部に作った巣を観察しました。アカマツとモミの巣は 3 月 11 日に巣材運びが見られ、ヤマザクラの巣は 3 月 14 日に巣材運びが見られました。アカマツとモミは木の上部であることや巣が葉に隠れて下からでは非常に確認しにくい場所にありました。ヤマザクラの巣は木の中ほどにあり観察しやすい場所でしたが、育雛期にハシブトガラスに巣ごと落とされ繁殖は失敗しました。

アカマツとモミに作った巣は順調にヒナを育て、成鳥 3 羽でエサを運んでいました。卵は通常 7～12 個。2 週間ほどでヒナが孵ると幼虫などの昆虫を捕まえ巣に運びます。ヒナが孵るこの時期、親鳥以外がエサ運びする「ヘルパー」が現れます。ヘルパーになるのは一般的に繁殖行動をしていない血縁関係の若い個体と言われていましたが、血縁がなくても繁殖していない個体がヘルパーをすることがわかってきました。

エナガの幼鳥は、親鳥からエサをもらわなくなってもしばらく行動をともにしてエサの捕り方など学び、夏の終わりにはひとり立ちして他の群れに分散していきます。

新しい群れの中で新参者のオスが繁殖に参加することがあります。新しい仲間としてコミュニケーションを取るためではないかと考えられています。ときには10羽以上のヒナを育てるため、ヘルパーの存在は大きく役立ちます。親鳥2羽とヘルパーはコミュニケーションを取りながら、一緒にエサを探しに行き、一緒に巣まで戻って1羽ずつ巣内にエサを運びます。

観察していたモミの巣から4月16日に12羽のヒナ、アカマツの巣からは4月20日に18羽のヒナが巣立ちました。巣立ったばかりのヒナたちは、枝の上などでくっついて並びます。これは身体を温めあうためだと言われています。親鳥たちがエサを運んでくると活発に動き始め一時的に団子状態は解消されますが、親鳥たちが離れエサを探しに行くと再び集まってきて団子状態が形成されます。巣立って数日経ってしまうとヒナは親鳥たちを追いかけながらエサをもらうため団子のように並ぶことは少なくなっていくますが、夜間は親鳥も一緒に並んで眠ります。

繁殖期が終わるとシジュウカラ、ヤマガラ、ヒガラ、メジロ、コゲラなど種類の違う小鳥と混群になります。中でも数が多いエナガは群れの先導を行っていることが多く、「ジュリリ、ジュリリ…」「チーチー」「チュリリー」などにぎやかな声を出しながら移動します。これらの混群は街中、公園、河川敷、丘陵地、山間部など青梅市内全域で観察することができます。



エナガの幼鳥



18羽巣立ったアカマツのヒナ

(文責 荒井悦子)